

定例研究会議事録

(報告者：M2 安食広大) 議事録担当：池田 敦

佐々木：日本の歴史の中で幕末に教育熱が広まったというのはなぜか。

安食：何で広まったのかはわからない。あまり重要なことではない。

佐々木：いま途上国で教育熱が広まっているというが、なぜ広まっているのか。

安食：わからない。

平松：文化的営みの点からとらえた日本の授業とは何なのか。なぜこれを出してきたのか。どう関係があるのか。どういうところで確立していったのか。

安食：歴史と文化的営みを関連づけて考えてはいない。学習指導は文化的営みであるので、学習指導を改善させるためには、文化的営みを変化させる方法を知らなければならない。そういうことで文化的営みを出してきた。学習指導を改善させる方法として、授業研究が必要であり、その授業研究がどう出たきたかということを歴史に出して、どうやって出現したか説明したわけであって、授業研究が文化的営みといっているわけではない。

阿部：初等教育の質の問題について、アメリカと途上国を同等に扱われたが、それは根本的に違うのではないか。アメリカにおいては、教育現場におけるインフラ整備が全て整った上で人間として最低限必要な言語、文化、歴史はもちろんのこと国際競争力をつけさせるための教育がなされているが、途上国では、インフラ整備がされていない上に最低限度の言語、文化、歴史を学べばそれでよいという教育である。したがって、どういった点で一致、類似しているのか。

安食：一致しているとはいえないが、アメリカの教育はよくない。アメリカの論文をみてもわかるが、初等教育での成績がよくない。アメリカはインフラが整っているが成績が悪い、途上国はインフラも整っていない。なので、アメリカの教育の質は悪い。

阿部：教育の良し悪しを学力として置き換えられるのか。

安食：自分としては、学力だけでみているとはいえないが、それも一つのツールではないかと思う。

伊藤房雄：おもしろいテーマであると思う。なぜ授業研究に焦点をあてているのか、そこをはっきりとしたほうがよい。また、研究の内容が明確に出ていない。アメリカを出しているが、それを比較対象にするのは飛躍しているのではないかと思う。

長谷部：文献研究なのか調査をするのか先送りにされていると思うのだがどっちなのか。

安食 : 文献研究です。

長谷部 : それなら文献調査をもっときっちりとしたほうがよい。

(報告者 : M2 市原通雄) 議事録担当 : 新垣健太郎

平口 : 現地調査は行ったか。

市原 : 今回は聞き取り調査をもとにではなく、文献から作成した。

平口 : 今回の報告は、productcu と customer solution との関連からみたものなのか

市原 : そうである。この場合、誰が顧客かという問題があるが製品開発ということに注目し、その点からの顧客というものを意識した。

平松 : 市場が飽和しているという中で、栃木の事例だけをみるのではなく、福岡の事例もみなければならぬのではないかと。現在、福岡の状況はどうなっているのか。

市原 : 詳しい情報はないが、一般的には輸送の問題と「とよなか」につぐ品種の改良が行われていない状況がある。

澁谷 : 福岡県の情報で、知的財産権戦略という情報がある。福岡との対比はすべきである。

市原 : 福岡県では「あまおう」という品種は開発されたと聞いているが、それは福岡県内での生産にとどまっており、門外不出となっている。知的財産権という観点と「とちおとめ」の開発時期とでは、異なる部分がある。

澁谷 : 官の関与という点であるが、ここでは県を指していると思われるが、法・制度整備もマーケティングに作用したのではないかと。

市原 : その通りだと思う。

澁谷 : 栃木におけるイチゴ生産の全国におけるシェアは 14.2% とあるがこれはなにか。

市原 : 出荷量を指している。

長谷部 : タイトルが長い。農産物のマーケティング・マネジメントではだめなのか。検討してみてもどうか。

4 P と 4 C での重要度に違いはあるのか。これは他のマーケティングとは違うのか。福岡と栃木では違うのか。4 P と 4 C のどの部分にウエイトがあるのかということを検討してみてもどうか。それとも単にマッチングが重要ということか。

平口 : なぜ、4 P と 4 C のマッチングがなしえたかというところが欲しい。

(報告者：M2 佐々木 信) 議事録担当：伊藤大輔

西橋 : カキについて、剥き身と殻付きの説明をした方が分かりやすくいい。

広田湾と志津川で、今回は流通体系を見たということだが、生産体制自体も違うのか、また、志津川では組合員数が広田湾より少ないのに生産量が多いので、品質が気になる。

佐々木 : 他の所だと、カキの加工メーカーが価格を決めている。

志津川ではできに関係なく定価で販売なので、品質向上しにくいかも。

田中 : 感想ですが、カキ以外のワカメなどの養殖の状況を挙げると分かりやすい。

佐々木 : 参考にします。

関根 : ばらつき係数とは何か？

佐々木 : 変動係数です。近年のばらつきだけ調べています。

関根 : 広田湾と志津川の生産体制と漁家の規模も分かると良い。

佐々木 : 今後の課題にします。

伊藤房雄 : 2つの流通組織間契約効率の話が出ているが、どういうことでもって効率性というのか、どのように効率性を分析するのか。

佐々木 : 参考文献に挙げている「組織の経済学」の手法を使って分析します。何をもって効率的ということは、自分でも迷っている。

長谷部 : 志津川の供給量は、カキの価格に影響を与えていると思うが、これは重要ではないですか？

佐々木 : 今後考えてみます。